

4. 茨城県における地域基幹病院での全般的な遺伝相談と 特定疾患に対する地域保健事業としての遺伝相談

有波 忠雄*

要 約：茨城県における三形態の遺伝相談の実態を報告した。1) 保健所、市町村を窓口にした遺伝相談を実施している茨城県母子保健センターでは特殊検査が必要な単因子遺伝病の遺伝相談は少なく多因子性疾患や遺伝性が明確にできない疾患、あるいは疾患と直接関係のない相談などが多かった。2) 地域基幹病院として遺伝相談を行なっている筑波大学産科、小児科では、相談受診者の半数以上が染色体検査やその他の特殊検査を必要としていた。しかし、筑波大学で可能な検査は種類や精度の安定化に問題があり、特殊検査の全国レベルのネットワーク化が望まれた。3) 茨城県南部の市町村単位で行なわれている高コレステロール血症の検診が、地域保健活動に密着した遺伝相談の一形態となりうることを報告した。

見出し語：遺伝相談ネットワーク、多因子性疾患、地域保健

研究目的

本研究の目的の第一は茨城県における遺伝相談の実態を知ること、遺伝相談のセンターである茨城県母子保健センター遺伝相談部門と地域基幹病院である筑波大学産科、小児科での遺伝相談の実態と問題点の把握を行なった。目的の第二は、地域保健活動としての遺伝相談という形態が可能であることを示すことで、学童検診をてがかりとした高コレステロール血症の遺伝相談の実際を把握した。

研究方法

1) 茨城県における遺伝相談の実態

1-1 保健所、市町村保健婦を窓口とした母子保健センターでの遺伝相談

茨城県では県の事業である母子保健事業のなかに遺伝相談部門を設け、県内の保健所や市町村の保健婦を通じて県民の遺伝相談に応じている。平成元年度から3年度までの3か年の遺伝相談の実際について集計を行なった。

1-2 筑波大学産科・小児科での遺伝相談

遺伝相談およびそのための処置が必要なケースを対象に、茨城県における遺伝相談の基幹病院として機能している筑波大学の産科・小児科

*筑波大学基礎医学系

の平成3年度の1年間の遺伝相談の実際を集計し、その問題点を浮き彫りにした。

2) 茨城県1町・1村における高脂血症検診と遺伝相談

茨城県で市町村単位に実施されている小児成人病検診事業の一つである高コレステロール血症小児とその家族の高脂血症検診について遺伝相談の側面から集計した。

表2 茨城県石下町・千代川村における小児成人病検診の受診者

一次検診受診者	2,462人
二次検診受診者	338人
三次検診受診者	202人
三次検診受診家系	186家系
親の受診率	62%
親が高コレステロール血症	
父	14%
母	15%

結 果

1-1 保健所、市町村保健婦を窓口とした母子保健センターでの遺伝相談(表1)

1-2 筑波大学産科・小児科での遺伝相談

(表1)

表1 茨城県母子保健センター(A)、筑波大学小児科(B)、産科(C)における遺伝相談内容

相談の対象疾患	A	B	C
常染色体優性	5	1	
常染色体劣性	2	1	2
X連鎖性	12	2	10
染色体異常	4	10	19
奇形	31	4	12
精神神経疾患	17	1	
その他の疾患	13	1	
近親婚	12		
非遺伝性疾患	9	1	1
高齢妊娠			44
計	105	21	88

A:平成元年～3年; B:平成3年

C:平成2年

2) 茨城県石下町・千代川村における高脂血症検診と遺伝相談

石下町と千代川村で小学4年生および中学1年生を対象に行なわれている小児成人病検診のうち血清脂質値を手がかりに健康相談(表2)

考 察

茨城県における狭義の遺伝相談の基本システムはできていると考えられる。問題はその量と質を維持するシステムであろう。基幹病院へはほとんどが紹介であるが、紹介が適切でないと、せっかく来院されてもすでに時期が遅すぎたことも少なくなかった。そのために、紹介医への知識の普及とともに一般医家向けのマニュアルの必要性が強く感じられた。また、特殊検査の実施機関の確保の問題もある。筑波大学での特殊検査は診療科の医師とともに基礎研究室の研究者が研究の間合で行なっているが、検査の不安定さは無視できないものである。さらに、他機関に依頼をしなければならぬ検査も多く全国レベルの検査のネットワーク化が望まれるところである。

遺伝相談が最終的には地域住民の健康増進の一手段であるならば、相談を待つだけでなく、地域保健活動として地域に出かけていく形態も有用であると考えられた。

文 献

- 1) Hamaguchi et al. Genetic risk factors for coronary heart disease in the Japanese population. in Berg et al. eds. Genetic risk fac-

tors for coronary heart disease in the Japanese population. P 110-126, 1991.

Abstract : To clarify the need for genetic counseling in Ibaraki Prefecture, statistics for genetic counseling at Maternal and Child Health Center of Ibaraki and the university hospital in univer-

sity of Tsukuba was reported. Furthermore, genetic counseling for hypercholesterolemia as one of the regional public health programs practiced in the southern part of Ibaraki Prefecture was reported. Problems we have at the present are discussed.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:茨城県における三形態の遺伝相談の実態を報告した。1)保健所、市町村を窓口にした遺伝相談を実施している茨城県母子保健センターでは特殊検査が必要な単因子遺伝病の遺伝相談は少なく多因子性疾患や遺伝性が明確にできない疾患,あるいは疾患と直接関係のない相談などが多かった。2)地域基幹病院として遺伝相談を行なっている筑波大学産科,小児科では,相談受診者の半数以上が染色体検査やその他の特殊検査を必要としていた。しかし,筑波大学で可能な検査は種類や精度の安定化に問題があり,特殊検査の全国レベルのネットワーク化が望まれた。3)茨城県南部の市町村単位で行なわれている高コレステロール血症の検診が,地域保健活動に密着した遺伝相談の一形態となりうることを報告した。